



<b>認知心理学</b>	単位数	履修方法	配当年次
	<b>4</b>	<b>R or SR</b>	<b>2年以上</b>
科目コード	<b>FH3510</b>	担当教員	<b>西林 克彦</b>

### ■科目の内容

日常用語としての「認知」という言葉は、「認める」とか「知る」といった意味です。心理学では、それにくわえて推理・思考などの高次精神機能をへて「知る」ということも入ってきます。とにかく「認知」とは広い意味で「知る」ことだと思ってください。

ですから、「認知心理学」は「どのようにして知るのか」の学問とっていいでしょう。ただ、「認知心理学」には著しい特徴があります。それは、人は（動物も基本的に同じですが）その時々において、すでに枠組みを持っているのを認めることです。意識することは少ないのですが、私たちは自分の持っている枠組みで外の世界に注意を向けます。ですから、その枠組みに関係する情報は引っかけりやすく簡単に取り入れられるのです。それに対して枠組み・知識のない分野の情報は、取り込むのに大変苦労したりします。偏った考えを持った人が、そのアンテナに掛かる情報ばかり取り入れ、ますます偏ってしまうことにもなったりするわけです。旧来の条件づきの心理学ではこのような事態は説明できませんが、認知心理学では可能になります。

さて、この講座では、広範囲にわたる認知心理学領域全体を浅くカバーするのではなく、学習、理解、学習指導、文章の理解といったことを中心に、この学問ならではのアプローチの面白さを実感していただくと思います。そこで獲得した見方・考え方は、認知心理学の広範な他領域の学習や、日常的な場面への適用をも容易にしてくれるでしょう。

### ■到達目標

- 1) 認知心理学のタームを用いて知覚・文章理解・理解・情報探索などについて述べることができる。
- 2) 認知心理学的に教育や日常の問題を考えることができる。

### ■教科書

- 1) 西林克彦『間違いだらけの学習論——なぜ勉強が身につかないか』新曜社、1994年
  - 2) 西林克彦『わかったつもり——読解力がつかない本当の原因』光文社、2005年
- (最近の教科書変更時期) 2011年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	有意味学習 (教科書1) 第1章)	機械的暗記と有意味学習の枠組みで学習論を検討できることを理解する。	現在流布している学習論は条件づけまたは機械的暗記に由来するものが主である。これと著しく異なる認知心理学的な有意味学習の観点で再検討して欲しい。
2	認知構造 (教科書1) 第1章)	有意味学習において認知構造の果たす役割について正確に理解する。	機械的暗記でクリティカルな学習対象の量や繰り返しの多さは、有意味学習においては問題とならないこと、むしろ逆になることに注意して欲しい。
3	有意味学習の特徴①注意 (教科書1) 第2章)	有意味学習はオーバーフローしないこと、仮説演繹法が探究の基本であることを理解する。	機械的暗記は簡単にオーバーフローするが、有意味学習は認知構造との結びつきによって全く逆になることに注意して欲しい。また、仮説演繹法は有意味学習の有力な手法であることを押さえて欲しい。
4	有意味学習の特徴②学習曲線 (教科書1) 第2章)	有意味学習では学習曲線が必ずしも単調増加関数的にならないこと、賞罰が必ずしも学習を促進しないことを理解する。	発達および学習曲線は単調増加関数的であると無批判に考えられているが、有意味学習では成長によるエラー、学習によるエラーによって一度落ち込むのが一般的であることに注意して欲しい。
5	理解 (教科書1) 第3章)	理解を構成する要素とその構造を明確に把握する。	ある事実を理解するとは、それを包摂する法則的知識を用いて事例にすることによってであることを理解する。そのとき理解は三層構造をなすことを十分に押さえて欲しい。
6	応用 (教科書1) 第3章)	理解の構造を用いて応用のメカニズムを理解する。	応用できない知識形態は理解の三層構造が形成されておらず、それには二種あること、および共通の法則的知識に種々の条件を介して個別的知识が包摂される知識形態の優位性に注意して欲しい。
7	知識形態 (教科書1) 第4章)	知識形態とその使用実態は完全な照応関係にあることを理解する。	「知っているけど応用が利かない」とか「できるけれど理解していない」などと言われるが、そのような知識とその使用可能性を切り離すことは間違っている点に注意して欲しい。
8	知識の使用と質 (教科書1) 第4章)	知識は思考の道具でありその質が肝要であることを理解し、質の吟味法について理解する。	外界を探索する道具としての知識を、教授者が学習者に提案するのが教授学習過程である。教授者による道具の精査が教材解釈であり、教授内容と教授方法とは不可分であることを注意して欲しい。
9	学習の内実 (教科書1) 第5章)	学習の内実とは、学習形態が受動的か能動的であるかにかかわらず、形成された知識形態の質によることを理解する。	受容学習は受動的で効果が薄いとみなされ、能動的に見える発見学習や問題解決学習のスタイルが称揚されることが多い。しかし、有意味学習の観点からすればこれらは甚だ怪しいことに注意して欲しい。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	知識と探索 (教科書1) 第5章)	知識は探索の道具であるが、その質の検討および構築について理解する。	どのような知識が外界を探索するのに有効か、またどのような知識形態が有効か、そして望ましい知識形態の構築にはどのような方法があるのかに注意して欲しい。
11	わかったつもりという現象 (教科書2) 第1章)	文章の読みが深まらないのは、わからないからではなくて読み手がわかったつもりになってそれ以上の探究をしなためであることを理解する。	「わからない」と「わかる」と「よりわかる」の区別をし、「わかったつもり」が文章理解の過程におけるひとつの安定状態であることを正確に押さえて欲しい。
12	文章理解のメカニズム (教科書2) 第2章)	文章理解における文脈、スキーマの機能について理解する。	文章理解において文脈が既存スキーマを活性化する役割を果たすこと、用いる文脈によってそれぞれの記述から引き出される意味が異なってくることに注意して欲しい。
13	文脈のはたらき (教科書2) 第3章)	大雑把な読みや読み飛ばしや誤読に文脈がどのように関わっているのかを理解する。	文章全体の雰囲気といった大雑把な文脈を用いると、読み取りが雑駁になりやすいこと、書かれていないことまで読み取ってしまうかねないことなどのメカニズムに注意して欲しい。
14	さまざまな「わかったつもり」 (教科書2) 第4章)	わかったつもりを作り出す各種要因について理解する。	結果に合わせた読み取りや、種々雑多な事象の羅列と感ずることによる論理の放棄もある。また、既存の物語スキーマを用いたステレオタイプの読み取りなどがあることに注意して欲しい。
15	「わかったつもり」の壊し方 (教科書2) 第5章)	文章理解における解釈の検証・反証のメカニズムを理解する。	「わかったつもり」を壊すには、部分間に矛盾や無関連を見つけ出さなければならない。それが次の新しい解釈を生み出していくことに注意して欲しい。

## ■レポート課題

1 単位め	<p>有意味学習と機械的暗記では学習の様態がずいぶん違います。なぜそうなるのか、そのことは学び方や教え方にどんな違いをもたらすのか、について述べてください。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（論述式）</p>
2 単位め	<p>文脈、スキーマ、活性化などの用語を使いながら、読みのメカニズムについて整理してください。また、それと以前の自分の読みに対する考えと対比させて述べてください。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（論述式）</p>
3 単位め	<p>理解の構造、応用のためにはなぜ理解が必要なのか、について考えを整理して述べてください。</p>
4 単位め	<p>読みの過程で「わかったつもり」がどのように生じ、それがどのようにより深い読みを妨げるかについて整理してください。また、認識の深まりということからすれば、このようなことは読みに限られるわけではないでしょう。他の分野でどのようなことがあるか考えてみてください。</p>

## ■アドバイス

レポートを書くという作業は、教科書を読んでその内容をまとめることではありません。知識は、自分の頭の中を通過していない限り借り物ですし、自分のものになった言葉で書かない限り人に訴える力を持ちません。認知心理学的に言えば、自分の枠組み・認知構造が情報獲得に関与していなければなりませんし、関与していなければ「わかる」ということにもならないのです。また、自分の枠組み・認知構造が獲得した知識・情報によって、再構成すなわち変化させられていなければ、これまた、「わかって使える」ということにはならないのです。

ですから、レポートを書いている途中でわからないことや調べたいことが出てくれば、情報がだいぶん咀嚼されて自分のものになりつつあると考えてください。「わかったふり」をするのは厳禁です。そもそもそれでは自分の勉強になりません。新しく学んだ知識を整理し、わからない点や不整合な点を見つけ出し、具体的に適用するとどうなるのかといった疑問を抱き、それらに自分なりの回答を考えるといったレポートを期待しています。

### 1単位め アドバイス

教科書1)の1, 2, 5章が主として関係するところです。世の中では勉強法という機械的暗記すなわち無意味材料に関するものがほとんどです。認知心理学で考えた有意味学習の有利さについて、またなぜ世の中では有意味学習が推奨されることが少ないのかについても考えてみてください。

### 2単位め アドバイス

教科書2)の1, 2章が主として関係するところです。私たちは、読むときに意識しませんが、こんなにも積極的に複雑なことを、しかも瞬時に行っているのです。その巧緻なメカニズムを理解すれば、それがうまく働かないとき、うまく読めないときの理由や対応も考えることができるようになります。

### 3単位め アドバイス

教科書1)の3, 4, 5章が主として関係するところです。「理解の構造」は、少し歯ごたえがあるかと思いますが、ここが理解できれば、「応用」は比較的楽に了解できると思います。

### 4単位め アドバイス

教科書2)の3, 4, 5章が主として関係するところです。「わかったつもり」は、ひとつの「わかった」状態ですから、わからないところがなく、次の行動がとれないので、読みが深まらないのです。「わからない」だけが次に進めない理由だ、とよく思われがちですが、ある程度読める人には「わかったつもり」の方が、じつはよほど問題なのです。

## ■科目修了試験 評価基準

内容理解が一番のポイントであるが、テクニカルタームが適切に使われているか、課題に過不足なく答えているかも評価対象となる。

## ■参考図書

- 1) 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原 滋著『認知心理学』 有斐閣, 2010年
- 2) リンゼイ, P. H. ・ノーマン, D. A. 著 中溝幸夫ほか訳『情報処理心理学入門』(1-3巻) サイエンス社, 1985年